

六甲カトリック教会 教会報

2023

10

No. 622



教会活動で大切な要素

主任司祭 英 隆一朗, s. j.

暑い夏がやっと過ぎつつありますが、いかがお過ごしでしょうか。この夏には各種のキャンプや平和を祈る集いなど行事が多かったです。特に、納涼地区交流会は、納涼の夕べから大幅に変更した行事となりました。コロナ明けに伴い、元の活動に戻したものもあり、変更したものもあります。

今後、イベントを行う上で、大切な点を伝えておきます。教会活動は主に以下の4つのために行われます。①祈りや信仰を深めるため。もしくは、教養や社会的意識を広めるため。②信徒同士の交わりを深めるため。③福音宣教、つまり教会の外にいる人への働きかけ。④社会の中で貧しい人や苦しんでいる人を助けるためです。この4つは六甲教会の祈りの中で明確に表現されています。自分たちの活動や行事がこの4つのどこに力点を置いているかを一度見直してみられるとよいと思います。コロナの間に、人と人のつながりが弱くなりましたので、②を意識した活動を行うことが必要でしょう。その点では、納涼地区交流会はとても有意義でした。ただ、教会のまわりの人が気軽に参加できる集まりではないので、納涼の夕べに比べると、③の要素が弱くなったと言えるかもしれません。教会全体の勢いが弱くなると、③の要素が弱くなっていくのが少し懸念材料です。

もう一つ現実的な問題としては、⑤それをするだけのマンパワーがあるかどうか、考慮すべき大切な要素となります。六甲教会だけでなく、大阪教区全体でも、信徒の高齢化が急速に進み、以前のような大がかりのイベント開催が難しくなっています。無理をして活動するのは長続きしませんから、身の丈に合った規模で、できる範囲の活動に縮小していく必要もあるでしょう。この秋にはかなり多くの集まりや行事が予定されています。⑤の現実的要素を受けとめながら、どのようにして上記の4つの要素を活かしていくのか。そのようなことを考えながら、秋の行事を迎えたいと思います。私たちの活動が有意義で、かつ楽しく行えるように、これからも皆さんと模索していきたいです。

その他のこととして、

1. 10月にはシノドス第1期の会議がローマで開かれます。どうぞお祈りください。
2. 聖座より大阪教区と高松教区の合併が発表されました。新教区長の着座式ミサが10月9日(月)に行われます。その日から、大阪高松教区という新しい教区が出発します。教区の既存の組織・グループは形式上10月8日にすべて解散となります。9日以降、新たな組織作りから始めることとなります。新しい教区のためにお祈りください。
3. 前号でお伝えした「お告げの祈り」ですが、朝(7時/7時30分)と夕(18時)のミサ直前に皆で唱えることにしました。どうぞよろしくお祈りをお願いします。

2023年度 第3回小教区評議会 議事録（要約）

日時：2023年9月3日（日） 12:00～14:30

場所：信徒会館 第1、第2会議室

出席者（敬称略）：佐久間 勤 イエズス会日本管区長、英主任司祭、宗行議長、堤・松井 両副議長、多田・中村 両書記、中西（典礼部）、井川直（地区会）、井川伸（社会活動部）、本下（前施設管理部）、藤井（婦人会）、吉村千里（教会学校）、三澤尚久（中高生会）、大上（広報部）各コーディネータ

1. 佐久間管区長の挨拶

- ・六甲教会は、大阪教区の教会であり、イエズス会の教会でもあるので、イエズス会と共に歩む教会でありたい。
- ・イエズス会の4つの優先課題（UAPs）①霊操と識別を通して、神への道を示す、②貧しい人々、虐げられている人々、隅に追いやられている人々と共に生きる、③若者と共に歩む、④地球、環境に配慮する一の方針に従って、日本管区の計画を推進して行きたい。特に、環境の問題は、社会の政治や経済と密接な関わりがあることに注視して、信仰の問題として新しい取り組みをしたい。そして、私達が今生きている世界は、神様から頂いた大きな恵みであることを意識して生活してほしい。これらは教皇様の意向でもある。

2. 英主任司祭の挨拶

- ・（佐久間管区長の話を受けて）エコロジーへの取り組みが、実際には大阪教区でも殆ど進んでいないので、六甲教会としては、まずは来年あたりから勉強会を始めたい。
- ・コロナ感染者が増えつつあるが、今のところは教会活動を制限する予定はない。
- ・ベルシステムの設定が完了したので、お告げの祈りを唱えることにする。本来は、朝昼晩の3回唱えるべきものであるが、10月初旬から、平日7:00 土曜18:00 日曜7:30のミサの前に唱えることとする。（場合によっては正午にも）
- ・教会行事に必要な要素は、次の3つ：①祈りや信仰を深める、②福音宣教、③信徒の交わり。中でも②に関して、外部の人が来ることができる機会を作りたいが、マンパワーとの兼ね合いもあり、今後どのようにするかが課題。掃除当番の現体制は、今後5年以内には見直しが必要になるかもしれない。

3. 報告事項

- 1) 侍者錬成会（6/25、7/2）報告（中西）：小学3年生8人のうち4人と、5年生1人が参加。そのうち3年生3人が、7/23のミサの中で侍者に任命され、8月から順次侍者を務めている。
- 2) 祈りと音楽の集い（7/16）報告（中西）：130人余りの来場。詳細は、教会報8月号。
- 3) 新受洗者・転入者説明会（7/9）報告（宗行）：新受洗者4人、転入者5人。全体で38人集まった。来年は開催時期を検討（4月か5月）。壮年会による軽食提供がよかった。食事を共にすることで関係性が深まるので、来年度もこういう形式で行いたい。（英主任司祭）
- 4) 地区役員会（7/16）報告（井川直）：納涼地区交流会とバザーについての概略を伝えた。
- 5) 平和旬間（平和を祈る集い（8/6）報告（宗行 代理）：16:00～17:30開催、86人参加。懇親会では壮年会が軽食提供。詳細は、教会報9月号に記載。
- 6) 教会学校キャンプ（8/9～8/11）報告（吉村）：子供21人、リーダー、フオン神学生、英主任司祭の総勢54人参加。今後はバス代の捻出とリーダー確保が課題。近隣の教会との合同開催も視野に入れるか。詳細は教会報9月号に掲載。
- 7) 中高生キャンプ（8/26～8/27）報告（三澤）：中高生13人、ヘルパー2人、フオン神学生、英主任司祭が参加。バスや車を利用する場合の費用捻出と、運転者確保、その安全性確保が今後の課題。詳細は教会報9月号に記載。
- 8) 納涼地区交流会（8/20）報告（井川直）：7グループ合わせて135人の参加者。地区交流会は地区内の交流を深める良い機会になったという声がある一方で、グループによっては、議論に終始してしまい、子供も参加できるようなものにして欲しかったという意見もあった。この地区交流会は“納涼の夕べ”の代わりに開催。お盆の時期は、普段遠方にいる信徒が帰省するので、色々な世代が交流できる楽しい催しを計画してはどうか。教会学校のこどもたちにとっても、“納涼の夕べ”は福音宣教の絶好の機会になる。

- 9) 青年会キャンプ (8/26、27) (英主任司祭) : フオン神学生含め9名参加。長らく青年会は機能していなかったが、現在 LINE メンバーは17人。人材確保が課題。実際に教会に来るのは5、6人。活動に熱心なのは、六甲教会出身の青年より、地方からの神大生と留学生である。会長は未信者。教会学校リーダーと青年会の両立は現実的には難しい。
- 10) 施設管理部 (本下) : 現在進行中の事業、検討中の事業、今後長期的に検討が必要な事業、及び定期的に必要な作業に関して、詳細な説明。「建物、施設等の経年劣化への対処」、「聖堂内音響の改善」、「教会内 LAN の構築」は、教会 SNS チームと協議しながら進める。「ベルシステム再設定」(お告げの祈りに対応) ほか。
- 11) 防災委員会 (堤) : 災害直後の対策に関して、組織を立ち上げ、避難場所と災害備品 (30 人分) を確認。10/21、22 にイグナチオホールで、防災グッズ等展示あり。災害の内容により避難場所として、信徒や近隣の人達の受け入れも。

4. 協議事項

- 1) 9月～12月の行事の日時変更の確認 : 9/3 (日) 祈りと音楽の集い 14:00～、9/18 (月) 三日月会例会 13:00～、10/1 (日) 典礼奉仕者の集い 13:00～、10/8 日 (日) 社会活動部学習会 11:30～、10/28 (土) 秋の黙想会「聖イグナチオの霊操の基本を学ぶ<2>」10:00～、11/12 (日) チャリティーバザー11:00～15:00、12/25 (月) 主の降誕 (日中のミサ) 7:00 10:00。
- 2) バザー収益金の献金先について : 昨年度に引き続き、カトリック社会活動神戸センター、船員司牧、こどもの里、大阪シナピスに加え、新規に緊急災害支援として、マウイ島火災被害、秋田の豪雨災害で被害を受けた学校などに献金することとした。愛の献金に蓄えがあるので、そこからも献金を検討しても良いのでは。(英主任司祭)
- 3) バザーの時間と駐車場について : 当日のミサは7:30、10:00、バザーは11:00～15:00。駐車場には車両誘導ガードマンを9:30～13:30まで配置。所定台数を超えたら入れない。事前に、当日は所定台数しか駐車できない旨を告知する。

第4回小教区評議会 11月19日(日) 11:30より 信徒会館第1、第2会議室にて

以上

佐久間管区長がミサ



この3月にイエズス会日本管区長に任命され、6月に就任された佐久間勤神父さまが、六甲教会においでになり、9月3日の10時ミサは英主任司祭とおふたりの共同司式となりました。佐久間神父さまは六甲教会で受洗、京都大学理学部卒業後イエズス会に入会され、上智大学や聖ゲオルク哲学神学大学(ドイツ)で神学を学び、1984年に司祭叙階されています。管区長就任前は、この4月まで上智学院理事長を務めておられました。ミサでは「いのちについて、受難から復活に至るイエスのいのちとは…」との講話をされました。ミサ後イグナチオホールで信徒のみなさんとの歓談をたのしまれ、午後からの小教区評議会にも列席されました。

秋の黙想会

当初の日程が変更され10月28日(土)に開かれます。

- ・指導: 英隆一朗主任司祭
- ・テーマ: 「聖イグナチオの霊操の基本を学ぶ」
春と秋3年間で6回のシリーズの2回目
- ・10時開始 15時ミサ
- ・昼食と聖書を各自ご用意ください。



東ティモール聖イグナチオ学院で活動を続けておられる浦神父さまから、お手紙が届きました。学院へは、六甲教会からさまざまなかたちで援助を行っています。このたびは、学院から上智大学へ進学していた留学生三人のうち二人がめでたく卒業することになったという報告とお礼の手紙です。在学中の Jania には、卒業までもう 1 年間あり、ひきつづき生活費援助を希望されています。

カトリック六甲教会

2023 年 8 月 27 日

主任司祭 英 隆一朗 神父様

信徒の皆様

聖イグナチオ学院基金

現地世話人 浦 善孝

上智への留学生 2 名への生活費援助のお礼

カトリック六甲教会の主任司祭英神父様をはじめ信徒の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

東ティモールの聖イグナチオ学院の卒業生で上智大学に留学していた Geovania Garret Mouzinho Freitas と Melissa Alifa da Costa は、この 9 月にそれぞれ上智理工学部を卒業することになりました。この 2 人の留学生は、上智在学中の 4 年半に渡り毎月各 2 万円の生活費援助を六甲教会の皆様よりいただいていた。2 人は卒業するにあたり、この 9 月にいただく皆様からの生活費援助が最後となります。長い間、東ティモールの聖イグナチオ学院の卒業生 1 期生が、上智で勉学することを支えてくださりありがとうございます。この 2 人の留学生の卒業は、聖イグナチオ学院の在校生に大きな励みとなっています。

東ティモール・ミッションで働いている私共の熱意だけでは独立戦争後の教育復興を支える教育プロジェクトは実現することができませんが、皆様のご協力により聖イグナチオ学院の卒業生が日本の大学で勉学を成し遂げることができました。そして、中高時代によい教育を受ければ、日本人の若者と同じように開発途上国の若者も大学で勉学することができると私たちは知ることができました。改めて、皆様のご協力に心から感謝申し上げます。



2 名の内、Geovania は上智理工学部修士課程に進学することが決まっています。もう 1 名の Melissa は、今後の進路を探しているところです。どうぞお元気にお過ごしください。

写真左 Geovania

写真右 Melissa

中央は同じく聖イグナチオ学院を支援して下っている方です。この方が日本アセアンセンターでアルバイト募集をしたところ、偶然に上智への留学生 2 人が応募したそうです。今月 8 月に届いた写真です。

◇社会活動部 今月の予定

- ・ 10 月 4 日 (水) 10 時～ 手芸の集い 信徒会館 2 階 第 1 会議室
- ・ 10 月 14 日 (土) 10 時～ 炊き出し 小野浜グラウンド
(神戸市小野浜町 3 ポートライナー貿易センター南)
- ・ 10 月 27 日 (金) 9 時 30 分 ともしび会 教会台所 (児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り)

◆社会活動部主催<学習会> どなたでもご参加ください!

- ★日時・場所: 10 月 8 日 (日) 11 時 30 分 ～、イグナチオホール
- ★講師: ロボアム・ティエリ神父 (イエズス会)
- ★テーマ: もういちど環境問題を根っこから考える～貧乏人の知恵袋を開く～



いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。
(テサロニケの信徒への手紙一 5:16-18)

この言葉は、使徒パウロが彼の伝道によって誕生したテサロニケ教会に送った手紙です。私がこの言葉に初めて出会ったのは教会学校時代。それはシスターから習った聖歌でした。いつも～、たえず～、どんなことにも～、の言葉が強調されたリズムだったので、旋律をすぐに覚えしました。また、帰天した母が好きな言葉でもありました。

母は帰天までの1か月、日々衰弱していきました。が、そんな中でも「ありがとう」という言葉を周りの人たちに何度も口にしました。日々の生活には、悩みや不満、不安、不平がたくさん同居しています。それでも当たり前の生活の中でも気づかない幸せがたくさんあること。すべてに対する感謝の気持ちは忘れないでいたいものです。そして「ありがとう」と祈ることが喜びにつながる気がします。ここ数年、私の誕生日は年齢を祝う日から、両親に命を授けてもらったことを感謝する日に変えました。ありがとう！いつも喜ぶこと、絶えず祈ること、どんなことにも感謝すること、これらは決して容易なことではありません。が、実はとても簡単なことなのかもしれません。

フオンさんの六甲ダイアリーより（1）

日本人とベトナム人と信仰



皆さんご存知のとおり、現在、日本に働きに来る若い外国人は非常に多く、ますます増えるいっぽうです。就労ビザの中でも特定技能ビザを持つ人を歓迎する政府の開放政策のおかげで、近隣諸国の若者に多くの新たな機会と仕事が創出されており、ベトナム人の若者が最も大きな割合を占めています。特に、ベトナムの総人口 9,946 万人のうち 50 万人以上が日本に住み、そのうち 5 万人近くの若いベトナム人カトリック信者が、いろいろなところで働いています。これほどの数字があると、社会学の観点からは若者の人口移動と見ることはできますが、カトリックの教会観ではこれを

“信仰移住”と見ることもできます。日本の教会は信者さんが高齢化しており、若者がほとんど教会に来ないという悲しい事実があります。したがって教会活動に参加する若者が少なくなります。その代わりに、ベトナム人の青年信者さんたちが、いきいきとエネルギーのある雰囲気と教会に貢献しています。週末には、彼らは教会に来て、教会に若々しい雰囲気を作り出すそうです。他の教会の例ですが、たとえば、侍者と聖歌隊のメンバーと教会清掃グループへの参加とクリスマスの飾りつけなどに参加しています。ベトナムにおける教会や信仰のこれまでの在り方、教会が若者に与える影響について、今後、簡単に紹介していきます。このテーマは、信仰の歴史とベトナム青年たちの宗教的な生き方に関連しています。皆さんも毎月の教会報で見ただけであれば嬉しいです。 Hoang Cong Phuong, s. j.

施設管理部からお知らせとお願い

- 10月2日から2週間、平日に池とその周辺の改修工事を行います。皆様にはご不便をお掛け致しますが、ご理解とご協力をお願い致します。
- 10月中旬～12月2週目、毎日曜日の7時半のミサ後、30分間、例年通り教会敷地内および周辺道路の落ち葉の清掃を行います。皆様のご協力をお願い致します。男性のご参加を大いに歓迎致します。

<祈りと音楽の集い>～風と弦のしらべ～ 9月3日(日)



今回はドイツ、マンハイム在住のオルガニストである甲斐弦也さんと、長くドイツのハイデルベルクで活躍され、現在は神戸在住のヴァイオリニスト、北島里枝さんの演奏でした。数年前に教会で演奏された吉田愛さんから、コロナ禍直前に甲斐さんをご紹介いただきましたが、日独の行き来もままならずなかなか実現しませんでした。昨秋、ハイデルベルクではじめてお目にかかり、ようやく実現しました。初期バロック時代のフレスコバルディのオルガン曲から始まり、そのほかにもバッハのヴァイオリンソナタ、オルガンソロではロマン派の作品まで時代と国を超えたプログラムでした。ピアノ学習者にはよく演奏される、ダカン作「かっこう」のような耳馴染みのある曲さえも、躍動感あふれる演奏でした。

第1部の締めくくりのビーバーのヴァイオリンソロの曲は、「守護の天使のパッサカリア」と呼ばれるもの。パッサカリアの65回も繰り返されるテーマを聴きながら、いろいろなことが聴衆それぞれの胸の中を行き来していたのではないのでしょうか。オルガンはペダルも使うとずいぶんたくさん音が出るので、古来、伴奏に使われることも多い楽器です。いろいろなストップの組み合わせにより、オーケストラの代わりをすることもあります。最後に演奏されたストラヴィンスキーの作品はオーケストラ作品としてよく知られていますが、それを作曲家本人がピアノとヴァイオリンのために編曲したものです。

今回はオルガンで伴奏されましたが、まるでオーケストラの演奏を思い起こさせるものでした。本番当日までのリハーサルやオルガンの音決め、そして演奏のアシスタントをさせていただきましたが、お二人の音がどんどん作られていく瞬間に立ち会えたことは素晴らしい経験となりました。
(典礼部音楽チーム 三浦優子)

三日月会は意気軒昂

三日月会が9月18日(月)敬老の日その日に開かれました。例年の総会は4月に済ませていますので、この日は堅苦しい話はなし、親睦を深めるための「敬老会」です。

1時から中村神父の司式でミサ、そのあとイグナチオホールに集まった三日月会メンバーは74人。蛭田会長のあいさつのはじめ、手話グループHOHOEMIの皆さん(写真)が手話ソングを4曲披露、蛭田さんもその中の一員として加わり、集まった人たちも手話を見よう見まねで試していました。



そのあと、河野光成さんのフルート演奏、鈴木肇さんのシャンソン、塚崎雄一さんの模範朗読披露があり、コーラス部が合唱「秋の童謡唱歌メドレー」「見上げてごらん夜の星を」を歌い、最後にみんなで「上を向いて歩こう」「ふるさと」を歌ってお開きとなりました。

終始にぎやかで笑い声の絶えない会場は熱気にあふれ、三日月会は意気軒昂ということが改めて確認できました。閉会の挨拶をされた川越さんから、因みのこの日は、英神父、松村神父、ロボアム神父が、ともに叙階された記念日でもあることが紹介され、神父さま方の今後の益々のご活躍を祈りました。みなさんは赤飯をお土産にいただき、4年ぶりに開かれた三日月会の集まりを堪能して解散しました。

お知らせ

- ☑ 年間第26日主日から土曜18時ミサ、日曜7時半ミサの開祭前に「お告げの祈り」(モニターに表示)を唱えることとなります。
- ☑ 10月1日(日)8時半～12時にパウロ書店が来店。イグナチオホールにて2024年カレンダー、クリスマスカードなどを販売。
- ☑ 11月2日(木)死者の日10時ミサ後にミニコンサート 演奏:オルガン 土田ルミ

チャリティーバザー開催に向けてお知らせとお願い＝地区会より＝

◇日時：11月12日(日) 10時ミサ後 11:00～15:00 開催

・軽食、ソフトドリンク、ジュース、コーヒー、ビール等あります。(有料)

！ 当日は混雑が予想されるので車の使用はお控え下さい。

！ 所定の台数を超えた場合は駐車できません。

【寄贈品のお願い】

◆蚤の市：寄贈品リスト用紙に寄贈者名、寄贈品内容を記載のうえ、以下の時間帯に受付担当へお渡してください。

提出場所：聖堂入口

| | | |
|----|----------------------|-----------------------|
| 日時 | ・10/8(日) 8:30～11:30 | ・10/15(日) 8:30～11:30 |
| | ・10/22(日) 8:30～11:30 | ・10/28(土) 17:30～19:30 |
| | ・10/29(日) 8:30～11:30 | ・11/4(土) 17:30～19:30 |
| | ・11/5(日) 8:30～11:30 | |

新品のご提供をお願いします。(半端な食器セット、大きな額、メダイやロザリオ、化粧品、薬、期限切れ食品などはお控え下さい)

◆衣料品

提出場所：信徒会館1階奥

日時 11/4(土)～11/11(土) 信徒会館奥収集

新品同様のものをご提供ください。(経年劣化したもの、肌着、背広の供出はお控え下さい)

◎個人出店者募集

個人またはグループでの、小さなお店の参加者を募集します。
手作りお菓子やアクセサリ、ぬいぐるみ、陶芸、ポストカード、
手工芸品など、皆さまの特技、家に眠る自慢の作品やお宝をご自分で出店し、
売り上げは、材料費を除いてバザーへの寄付をお願い致します。

- ・申込用紙を事務所に用意しています。
- ・詳細は、世話係(三垣/中村)までお気軽にお問い合わせください。

三水会(読書会)から

8月はお休みしましたが、9月は20日(水)に予定通り開催しました。この日のテーマは教皇フランシスコの使徒的勧告『喜びに喜べ』＝カトリック中央協議会訳＝の読後感をみんなでお話し合う、というものでした。教皇が在位6年目の円熟絶頂期に書かれたもので、日本語訳にやや難があるものの、信徒たる私たちの「聖性」について、いかにあるべきか、いかに実践すべきかを、熱意をもって話しかけられています。全部で120ページほどの比較的コンパクトな本ですが、教皇は設例を駆使しながら逐条的に説き明かされていきます。

休会中とはいえ、8月の異常な暑熱のなかで読むのは、なかなか大変でしたが、この日はよい分かち合いが出来ました。次回は10月18日(水)13時半から遠藤周作の『深い河』を取り上げます。自由な読書会ですので、みなさまいつでもお越しをお待ちしています。



みんなの広場

思い出の中の六甲教会

松田 房子

今では75年以上も昔のことですが、私は小学2年生のときから家族で六甲教会に通っていました。当初の六甲教会は一軒の洋館（民家）でしたが、間もなく現在の場所に2階建て木造の聖堂が立ちました。聖堂は正面の祭壇に向かって通路を挟んで、左右に分かれていて、右側と左側半分は畳敷きで小さな座布団が置かれ、左側の後半部分は板の間で、椅子が並べられていました。右側が女子席で左側が男子席となっていました。その頃の教会のお庭、建物、廊下、階段なども目に焼き付いています。私はまだ小学生で、当時の主任司祭はブラウン神父さま。子供たちはよく神父さまのお部屋にお邪魔して色とりどりのキャンディなどを頂いたものです。ブラウン神父さまのほかにも、コップ神父さま、エーデルマン神父さま、ナイ神父さま、フィッツ神父さま、クノール神父さま、ベリー神父さまなどたくさんの神父さまがいらっしゃいました。それぞれの神父さまのお姿、お顔、お声、話し方などが今でもありありと浮かんできます。のちの中井允神父さまは当時は大学生で、他の大学生のお兄さんたちと、よく遊んで下さいました。クリスマスのミサは真夜中に六甲学院で行われました。ミサの後は朝まで楽しく過ごしました。私が中学生になる頃に鐘楼が建ち、鐘はブラウン神父さまが、母国ドイツから取り寄せられたと聞きました。

その後、家族は一時関東に移り、私も結婚などを経て再び関西に戻り、三田市に住んでいます。夫を亡くし、私自身の高齢化も進んでいますので、ミサに参加することがなかなか難しいのです。こうして懐かしい回想にひたりながら信仰をこれからもはぐくんでいきたいと思っています。

今月の聖人（第39回） 聖フランシスコ・デ・ボルハ

フランシスコ・デ・ボルハ（1510～72）は、スペイン バレンシア地方の貴族ガンディア公ボルハ家の長男として生まれました。従兄の国王カルロス一世の政治、軍事顧問として仕えていたところ、尊敬していた王妃の死に直面し世をはかなみ、以後キリストのみに仕えようと決意。ちょうどその頃出会ったピエール・ファール（2022年8月号に紹介）の影響を受け、一切の権勢を捨ててイエズス会に入会。神学を勉強して1551年、司祭に叙階されます。イグナチオはボルハを高く評価し、スペイン・ポルトガルの総長代理に任命、イグナチオの没後、ボルハはイエズス会の第3代総長となりました（1565年）。



ボルハは総長として若い会員の育成に尽力、またイエズス会の世界宣教につとめ、アジア、中南米などに宣教師を派遣しました。10月3日が記念日とされています。絶頂の権勢を誇った名門の出身者が回心して聖職者になるというケースはイグナチオやほかの聖人たちにも見られます。

2023年度 「秋の墓参」について

11月5日（日）に「秋の墓参」が行われます。

今回の「秋の墓参」ですが、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症に移行となり、日曜日のミサも今春4月から7:30、10:00の2回に戻りましたので、10:00のミサを「死者のためのミサ」とし、長峰墓地での開式の時刻を12:00として、①「納骨式&墓参の祈りの会」、②「個人墓地の祝福」（12:45～）の2部構成で実施することと致しました。

「秋の墓参」への参加を考えておられる方は、昨秋の「秋の墓参」、今春の「春の墓参」とは、開式の時刻などが上記のように変更になっておりますので、お間違えのないようご注意ください。

お問い合わせは墓地委員会まで。

（墓地委員会 コーディネーター 鍵山 浩三）

六甲春秋 秋の訪れ

今年の夏は稀に見る猛暑で、人と会う度毎に「まあ、暑い」と云うばかり。しかしさすがに9月も半ばを過ぎてようやく、秋の訪れを身近に感じられるようになった。まだまだ残暑も厳しく、暑さのぶり返しが懸念されるが。何と云っても朝夕の心地よさは格別だ。朝の涼しい時を選んでいるのか、トンボが悠々と飛んでいる、たしかに鬼ヤンマでも赤トンボでもないが。また耳をすますと、虫たちが懸命に鳴いている。空の青さも深まり、吹き抜ける風のそよぎも繁くなった。暑ければ汗を流していればよいなどと私は無責任なことを云いながら、二十四時間にわたってエアコンに縋り付いていた。有難いことにそろそろ設定温度を見直す必要がある。小さな秋が、もうあちこちで始まっているのではないか。

10月7日は、ピオ5世教皇によって定められたロザリオの祝日である。1571年にレパント沖で、オスマントルコとの海戦に奇跡的に勝利したことに由来する。全地中海の制覇をめぐる、スペインとヴェニスと教皇庁が神聖同盟を結んで対抗し、キリスト者はひたすら戦勝をイエスの母・マリアに切に求めて聞き入れられたという。侵略し略奪を企てるオスマン軍を、敗退させたことを全教會的に祝賀するものである。その後も戦闘は続いたが、キリスト教諸国にとってこの出来事は、マリア崇敬について大きな影響を及ぼしたといわれている。しかし地政学的な大きな観点からみると、



信徒会館南面に咲いた リコリス
(白いヒガンバナ)

以後の時代は地中海の利権をめぐる小さな争闘から、世界の七つの海を制覇し植民地を獲得する大航海時代に入った。

教会も海外宣教に真剣に取り組む時代となったのである。スペイン、ポルトガル、オランダ、イギリスが名乗り出て、互いに鎬を削って戦う時代始まりを画する出来事であった。

皆さんは既に聞き及んでいるかと思うが、教会の鐘楼が見事に修復されて正午と18時に、お告げの鐘が鳴り響いている。ミレーの晩鐘で描かれているように、ヨーロッパではごく普通の慣習で、多くの教会は日に3度、神の子イエスが生まれるという聖母マリアへの大天使ガブリエルの告知・お告げが、鐘の音によって想起されている。(六甲地域では、近くの祥龍寺の鐘音が朝6時に鳴り響いている)。鐘の音は、風の向きや雲の動きによって聞こえる地域も強度もかなり異なるが、私たちにいろいろの想いを新たに呼び起こしてくれる一つの恵みの時なのかもしれない、勿論まったく耳に届かず聞き捨てになっていることも多いが。六甲教会の鐘楼には二つの鐘がぶら下がっているが、その一つは焼け落ちた古い山口教会から頂いたものである。もし幸いにも鐘の音が聞こえた折には、マリアだけではなく、この私たちにまた私だけに託された聖なる役割・使命を思い起こそうではないか。イエスの母であるマリアが引き受けた大いなる責務、多難な生涯にわたる召命を大いにほめ称え祝いながらも。「神のみ使いのお告げを受けて、マリアは神の御子を宿された。私は主の召使、お言葉通りになりますように。み言葉は肉となって、私たちのうちに宿られた」。

鐘の音は新たに、今日・ここで・私に、神のたつての望みや願いを思い起こさせているのではないか、秋の訪れに気づく心と共に。

中村健三 合掌

【2023年10月行事予定表】

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|------------------------|----|-------------|----|---|-------------------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 年間第26主日 手話付きミサ 10:00 典礼奉仕者の集 い13:00 ◎日曜班 | | | | | 初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後 | |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 年間第27主日 社会活動部学習会 (講演会) 11:30 | 教会受付休 み(スポー ツの日) | | | | ◎灘北1・北・ 三田 | |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 年間第28主日 バザー委員会 13:00 | | | 聖ルカ 福音記者 | | ◎大阪シナピス | 教会遠足 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 年間第29主日 こどもとともに 捧げるミサ 10:00 世界宣教の日 施設管理部会 11:30 典礼部会 13:00 | | | | | ◎灘北2・阪神 | 聖シモン 聖ユダ 使徒 秋の黙想会 10:00 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |
| 年間第30主日 | | | | | | |

◎は掃除当番地区(悪天候により朝7時の時点で警報等の発令があれば中止します)。

【編集後記】

教会には聖歌隊とコーラス部があります。聖歌隊は典礼部に属し主に聖歌を歌いますが、コーラス部は自由に歌を楽しむ会です。両方に参加する方も。歌を歌うことは人間のプリミティブな営みに合致しているのでしょう。新発足間もないコーラス部ですが、三日月会では「秋の童謡・唱歌メドレー」「見上げてごらん夜の星を」とむずかしい編曲の歌をみごとに披露しました。あらためて喝采を送ります。さて、次は何を歌ってくれるのでしょうか。(余)

| | |
|--|---|
| <p>・次回11月号の発行は11月4日(土)です。原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX、メールでお願い致します。(renraku@rokko-catholic.jp) 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 ・教会SNSチームは、フェイスブック、インスタグラム、X(旧ツイッター)、YouTubeチャンネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみてください。</p> | <p style="text-align: center;">六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英 隆一朗 編 集 広 報 部</p> |
|--|---|